

## 2. 各自治体における取組概要 | 枚方市 (1 / 4)

### 【A. 取り組みの全体像】

#### 1.自治体の概要

	<b>自治体名</b>		枚方市	<b>担当部局名</b>	子ども未来部 子どもの育ち見守り室 子ども相談課	<b>人口</b>	396,252 (人) <令和5年1月1日時点>
	<b>自治体内連携</b>	<b>庁内連携部局</b>	子ども未来部子どもの育ち見守り室、観光にぎわい部商工振興課、健康福祉部（健康福祉政策課・健康寿命推進室母子保健課・福祉事務所健康福祉総合相談課・福祉事務所障害支援課・福祉事務所生活福祉課・保健所保健医療課）、教育委員会児童生徒支援課（令和4年度枚方市子ども・若者支援地域協議会 代表者会議構成員）				
		<b>庁内連携内容</b> ※会議体、情報共有	「子ども・若者支援地域協議会」における各組織の取り組み内容・支援策についての情報共有				

#### 2.形成をめざす地方版連携PFの姿

##### 従前の取り組み

※重層の取り組み、外部組織連携、地域コミュニティ形成等

- 既存PFは、平成24年6月設置の「ひきこもり等地域支援ネットワーク会議」を継承して、平成30年3月に設置した「枚方市子ども・若者支援地域協議会」。幅広い関係機関が情報共有し、支援策を検討。平成25年4月には相談窓口での対応を開始。
- その他、市としてはヤングケアラー等の調査も実施。

調査	・ 2022年には、ひきこもり・不登校に関するアンケート調査・ヤングケアラーに関する実態調査を実施。
構想・方針	・ 枚方市子ども・若者育成計画～ひきこもり等の子ども・若者の自立に向けて～
体制	・ 「子ども・若者支援地域協議会」
実施	・ 必要な支援先へ情報連携ができるよう、関係機関同士が気軽に会話できるネットワークづくり ・ 勉強会の実施、市民への啓発活動
評価・検証等	・ 各種調査に関する分析に加え、相談窓口にて受け付けた相談件数・内容などの情報を整理し、自ら分析を実施。

##### 実現したい状態

※構築する仕組み／支援対象の住民を取り巻く環境

- 中学卒業後や高校中退・卒業後に所属がなくなり、必要な支援が途切れてしまう子ども・若者と繋がり、支援することができる。既存PFで15歳～39歳の子ども・若者を支援してきた実績から、**中高生への支援が、将来の孤独・孤立を防ぐ上で重要かつ、行政から早期に繋がれる貴重な機会でもあると認識。**
- 子ども達が社会的所属を失わないよう、必要な情報と支援を届けるために、関係組織が柔軟に連携できる。
- 子ども達との接点を契機に、保護者なども含め支援の輪を広げていける状態

#### 3.地方版連携PFにおける連携体制

<b>連携先支援団体名</b>	寝屋川高等学校（定時制）、大手前高等学校（定時制）、長尾谷高等学校（通信制）、あおい教育支援グループ（フリースクール運営等）		
<b>選出・打診時の工夫</b>	中学校以降の支援についてセーフティネットとなっている関係機関	<b>協議体（既設/新設）</b>	「高等学校以降の子ども・若者の支援について語るう会」（新設）
<b>支援団体との連携内容</b>	現状の情報共有、課題把握、解決策検討、これらを通じた顔の見える信頼関係の構築		

#### 4.PF連携による価値や工夫\_考え方

- 実際に相談対応を担当する課が主導しており、高い熱量と行動力を有して教育など他分野の関係機関へ働きかけている。
- ひきこもりの子ども・若者に対する支援を行う既存のPFが存在し、幅広い世代への支援を実施。今回のPF設立により、特に手が届かないか将来的なひきこもりの予防にもつながる中高生のひきこもりへの支援を検討し、PFの機能強化を目指す。
- 連携先の選出においては、アプローチ困難な若者との接点が豊富かつ早期に連携可能な団体をまずは選定し、その後必要に応じて連携を拡大。また、自治体が主体的に検討した案をベースに検討することでスムーズに検討を進捗させている。

## 2. 各自治体における取組概要 | 枚方市 (2 / 4)

### 【B.連携PFイメージ】

ひきこもり等の悩みを抱える子ども・若者（おおよそ15～39歳）とその家族など

ひきこもり・居場所のない中高生（～18歳）とその家族や教員など

相談

#### 既存の面談相談・電話相談

- 子どもの笑顔を守るコール（中学生までの教育相談）
- ひきこもり等子ども・若者相談支援センター（15～39歳まで若者相談）など

✓ 子ども・若者本人が面談・電話相談に来るケースは少ない

✓ そこで、更なるアプローチの接点創出を企図

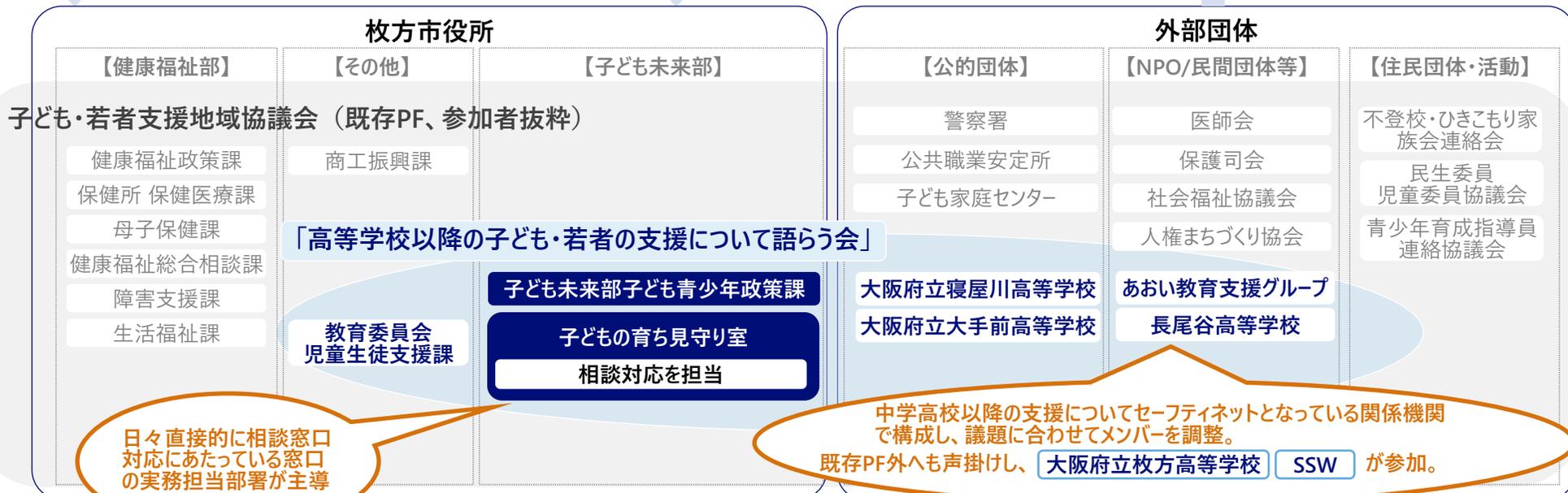
#### 【新規施策①】SNS相談アプリ

- 2022年夏に一部の小中学生を対象に実証実験を実施。
- 2023年度より、GIGAスクール端末に搭載し、恒常的運用開始を計画。

#### 【新規施策②】アウトリーチ的事業の拡充

- 2023年2月よりヤングケアラー支援を目的に家事・育児訪問支援サービスを開始
- 2023年度よりSSW増員

- 相談対応
- 訪問支援
- 相談窓口の周知
- 重層的支援会議との連携による漏れのない支援



## 2. 各自治体における取組概要 | 枚方市 (3 / 4)

### 【C.試行的事業一覧】

#### 6. 本年度に取り組む試行的事業の概要

##### 試行的事業の ポイント・工夫

- 本事業実施以前より計画されていた「SNS相談アプリ」の実証実験を単に実行に移すだけではなく、その更なる質の向上を目指し、職員向けの研修を実施している。
- PF会議を踏まえ既存取組の認知度向上を課題と捉え、その打ち手となる施策（相談窓口の案内リーフレット配布）を短期間で実行に移している。

事業名称	事業内容	目的／期待効果・KPI	実施時期	発注先（予算）
1 SNS相談対応にあたる職員への研修①	<ul style="list-style-type: none"> <li>これまで力を入れてきた対面・電話での相談窓口事業のさらなる拡大として、SNS相談窓口の来年度以降の本格運用を検討している。その際に対応する枚方市職員のスキル向上とともに、相談支援への共通理解の醸成を図る。</li> <li>SNS相談の特徴や安全に進めるための工夫、ケーススタディ等について、枚方市職員を対象に研修を実施。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>対応する枚方市職員のスキル向上</li> <li>相談支援への共通理解の醸成</li> <li>上記に伴う相談対応の質の向上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 令和5年2月8日</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>関西カウンセリングセンター（4.5万円）</li> </ul>
2 SNS相談対応にあたる職員への研修②	<ul style="list-style-type: none"> <li>上記内容に加え、2022年夏に実施された「SNS相談アプリ」の実証実験で寄せられた実際の相談内容を基にした研修を実施。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>同上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 令和5年2月24日</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>関西こども文化協会（4.5万円）</li> </ul>
3 広報物・ヤングケアラーチェックシートの印刷	<ul style="list-style-type: none"> <li>相談窓口「ととな」の案内リーフレット印刷</li> <li>学校教員・民生委員向けのヤングケアラーチェックシート印刷（配布については学校配布物のフローを活用するため委託無し）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>相談窓口の認知度向上。本人への周知に加え、教員や親など周囲の人の認知度向上により相談に繋がる事例を増す狙い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 令和5年2月中旬から令和5年3月中旬まで</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ラクスル（20万円前後）</li> </ul>

#### 7. 次年度以降に向けた事業等の案

※PDCAサイクルに照らして次年度以降に取り組んでいく事業イメージ（あれば）を例挙

- 学校へのチラシ配布強化や、教員に対する相談窓口・支援手法の説明の実施などによる周知啓発活動の強化。
- SNS相談アプリをGIGAスクール端末に搭載し、市内の小中学校にて本格運用開始
- SSWなどを通じて個々の生徒に関して教員と職員が共に支援策を検討することも検討
- 子ども達との接点を契機に、保護者なども含め支援の輪を広げていくことも検討

#### 8. 孤独・孤立対策を公表した際の反響

- 市役所よりPF参加候補となる組織へ声がけした際には、全ての団体が設立趣旨に賛同。どの組織も同様の課題認識を持っており、共同で取り組む機運は既に醸成されている。
- 他方、ざっくばらんに会話して関係組織同士の信頼関係構築を目的とするのか、具体的に目標や支援策の検討を進める会議とするのか等に関しては各組織それぞれの意見を持っている。
- 計画への位置付けを議会に報告した際には高等学校以降の切れ目のない支援に着目したのは意義深く、取組を進めてほしい旨意見あり。

## 2. 各自治体における取組概要 | 枚方市 ( 4 / 4 )

### [D.留意点]

